

令和4年度 3学期終業式（中学卒業式）式辞

まずは、中学3年生の皆さん、卒業おめでとう。

皆さんは、3年前にまだ小学生の雰囲気漂浮を漂わせながら本校に入学して以来、多くのことを学び、様々な経験も重ねました。特に皆さんは、入学してすぐに2ヶ月間に及ぶ臨時休業となり、奈良学園という新しい環境に慣れることもなく、家庭学習を余儀なくされた学年です。そうしたことも含めて、この3年間で辛いことや悲しいこともあったらと思いますが、それら一つ一つを、君たち自身の学びにつなげてくれているものと信じています。

中学卒業というこの節目の時期に、今一度、生活面・学習面をともに振り返り、次のステージに生かしてください。そして、今日家に帰ったら、家族の方に「無事、中学校を卒業して、義務教育を終えることが出来ました。ありがとう」と、君たち自身の言葉で伝えてください。

さて、本日、第3学期の終業式を迎えました。今年度の学びを修了したことを認める修了式でもあります。

振り返ると、新型コロナウイルス感染症の感染防止に気をつけながらも、なんとか予定していた学校行事も中止することなく、実施できたことを嬉しく思っています。また、一部の学年においては、学級閉鎖・学年閉鎖の時期もありましたが、一年間を通してみると、十分に授業も実施することができました。

今一度、静かにこの一年を振り返り、学力も心も成長できたか確認してみてください。今年度、高校3年生の廊下には、「学べば為すあり」ということばが掲示されていました。幕末の志士たちの指導的立場であった吉田松陰の言葉です。学べば学ぶほどに、やらなければならないことが見えてくる。何をすべきか分からない人は、十分に学べていない、学ぼうとしていないということ。勉強だけではなく、部活動も、探究的な活動も、家での過ごし方も含めて、「学べば為すあり」を心にとめて、新年度に備えてくれることを期待しています。

ところで、以前（中1・高1理数コースの入学前）、君たちにスウェーデンの精神科医アンデシュ・ハンセン氏の著書「スマホ脳」について話をしたことがありました。ハンセン氏は「あらゆる知識をグーグルで代用することはできない」とし、「本当の意味で何かを深く学ぶためには、集中と熟考の両方が求められる」と説いています。

今年の岐阜大学の入試で「スマホ脳」の本の一部を引用し、小論文を書かせる問題が出題されました。「グーグルで代用できる知識と人間に必要な知識について、考えを述べよ」というものです。皆さんはどう考えますか。

早稲田大学の情報学研究者のドミニク・チェン教授は今回の出題に触れながら、次のように話されていました。

「今、スマホは私たちの生活に当たり前にある存在となり、ユーザーが考える間もなく、情報を提供してくるアプリであふれている。学びの過程をテクノロジーに代替させてしまいそうになる誘惑も多い。」「簡単に手に入る情報は、たやすくこぼれ落ちていく。つまり、自腹を切っていない。自腹を切るとは、お金をかけることに限らず、意識を集中させて向き合うこと。時間をかけて得たものが、自分のなかに残っていく。」と。

また、「学びとはコミュニケーションの伴うもの。本を読むのも著者との対話だ」として、「自分とは異質なものに会い、考え方やものの見方が変わっていくことこそが学びであり、それをテクノロジーに代替させるのはもったいない」と語られていました。大いに共感できます。

君たちには「集中と熟考を繰り返し、自腹を切ってこそ残る知識」を身につけてくれることを期待しています。

君たちも知っていると思いますが、先日、1994年に日本で二人目のノーベル文学賞を受賞された大江健三郎氏が88歳で亡くなりました。大江氏は愛媛県立内子高校に入学され、高校2年からは松山東高校に転校。そして、東京大学文学部仏文学科に進まれ、在学時に作家デビューをされています。大江氏は高校時代、文芸部に所属され、当時に書かれた詩や文章が内子高校で見つかったとの報道がありました。報道ではその一部しか紹介されなかったのですが、その内容が高校生とは思えないすばらしいものでした。私は、是非、君たちに紹介したく、早速、内子高校の校長先生にコピーを贈ってほしいとお願いをしました。しかしながら、著作権の関係、ご遺族の意向等もあって、すべてを公表できないことをご理解くださいとのお返事でした。

実は大江健三郎氏は、高校1年生の時にいじめを受け苦悩されていたようです。そうしたなかであって、大江氏はシェークスピアの戯曲「ハムレット」について書いた文章を生徒会誌に寄せていました。その一文を紹介します。

「より良く生きるためには運命を直視しなければならぬ。前進することは悩みの連続であろう。しかし人間は前進するように運命づけられている。」と。

また、「赭（あか）い秋」と題した詩では、「哀しみ いかり なげき・・・傷心・・・。」で始まり、途中、夕日の情景を「パッキリ赤くひらいた 落日・・・。」と表現し、最後は「みじめな 赭い秋である。」と結ばれています。

これらのフレーズだけからも、当時の大江氏の苦しい心情をうかがい知ることができます。

君たちに伝えたいことは、「高校一年生の大江少年が、集中と熟考を繰り返

し、いかにして一つ一つの言葉を選び、どのような心持ちで紡いだのか」を想像して欲しいということです。

君たちも、今後文章を書く機会が増えてきます。自腹を切って知識を増やし、豊かな感性を養い、一語一語を大切にしたい、あなた自身にしか表現できないような文章を書けるよう成長してください。

最後に、コロナウイルス感染症について触れておきます。世間では、マスクの着用について、「個人の主体的な選択を尊重し、着用は個人の判断に委ねることを基本」とされています。

ただ、学校では新学期からの対応とされており、先日、文書でも連絡したとおり、感染対策については、春休みも含めて4月4日の始業式まではこれまでどおりの対策をしてください。すでに実行してくれていることですが、部活動等で食事をする場面でも、一定の距離をとりながら黙食をお願いします。始業式で、あらためて今後の対策等について話したいと考えています。

くれぐれも事故等に気をつけて、充実した春休みを過ごしてください。

以上